

茶の間ねこのて

【キーワード】

(施設種別) 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅
(運営主体) 市区町村 法人 NPO 個人 (補助金) 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()
(建物形式) 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 (建物状況) 新築 増築 改修 一部改修 既存
(対象者) 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 外観写真

千葉県船橋市津田沼にある自宅を利用したコミュニティカフェ。「茶の間」のあたたかくなごやかな雰囲気を大切にして地域の方の憩いの場作りをしている。一人でもふらっと気軽に立ち寄れてそしてゆる〜くつながれる地域の「茶の間」を目指している。主な活動内容は親子向けのイベントや、地域の人のランチ会、ボランティア作業。

■施設概要

所在地：千葉県 船橋市前原西 3-15-1
施設種別：戸建住宅
運営主体：個人
開設年：2012年 4月
開放日：不定期（月3回）
開放空間：1階 和室（6畳）・洋室（8畳）
広報活動方法：Facebook・ブログ・チラシ

■事業の経緯

オーナーは2011年の東日本大震災をきっかけに災害時は身近な地域の人たちとの助け合いが必要になると感じ、助け合いの基盤を作るために今あるものを使って何かできないかと考えた。東日本大震災の時に日本中に溢れた「きずな」という強いつながりではなく、居合わせた人がその場でゆるくつながれるコミュニティの場を目標に、地域の茶の間を作った。お茶の間にご近所同士で気軽に集まってたわいない世間話をする感覚である。個人宅の温かみを活かした集いの場を作り、居合わせた人同士のゆるやかな交流、助け合いが生まれるサポートの場。力を貸してくれる人を頼り、自分にできる範囲のことを無理せず細く長く続けてこうと考えている。

■活動内容

1階の和室と洋室の2部屋を利用し、親子向けのイベ



図1. 立地周辺 (Google マップから引用*)

JR 津田沼駅から徒歩10分



写真2. 活動の様子1 (チクチクカフェ)

和室を利用し、被災地や小児病棟の子供たちへ送る手作りのおもちゃを作っている。座卓を囲んで作業することで自然にコミュニケーションが生まれる。子連れの親が参加者が多いので子供のおもちゃが用意されている。

ント、ランチ会、ニットカフェ、ボランティア作業、クラフト教室を行っている。駐車場や駐輪場はないため徒歩 15 分圏内に住む人を主な対象者としている。レンタルスペースとして地域の人に安価に貸し出しているため、オーナー以外の企画のイベントも多く開催されている。主な対象者は主婦、親子、シニアである。

■建築概要・しつらえについて

利用目的に合わせて 1 階の和室と洋室の 2 部屋を使い分けている。和室は座卓で子供を寝かせながら活動ができ、洋室は 4 人掛けのテーブルが 2 つと椅子が用意されており、大人数でのイベントに対応している。親子向けのイベントを開催しているため、和室には子供のおもちゃを用意していたり、子供が触ってしまうことを考慮して家具などを配置している。茶の間「ねこのて」ということでネコをの壁紙や置物を置いている。2 部屋とも大きな窓があり明るくあたたかい空間になっている。

■今後の課題や展望

広報活動を積極的に行っていないため利用者が固定化している。コロナが終息したら、シニアと親子など異世代間の交流や子育て支援につながるイベントを企画して交流の場を活性化したいと考えている。また、建物が個人宅なので外から中の様子が見えず、初めて来る人は入りづらいので常設看板の設置などを検討している。

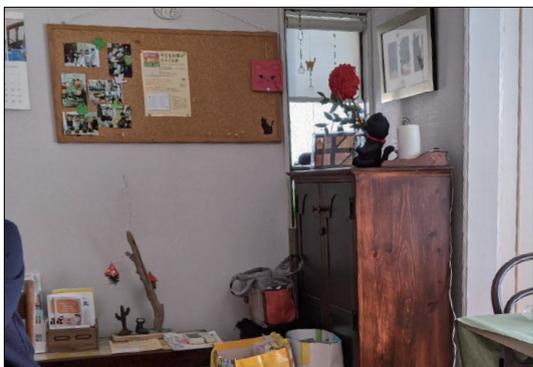


写真6. パンフレット・ポスターの掲示

洋室の入り口付近に、今までの活動の写真や、地域のイベントや部屋を利用した方のパンフレットを掲示している。



写真3. 活動の様子2 布の絵本カフェ

洋室のテーブルを広く利用し、キットを使って布の絵本を作成している。小さい子を連れたお母さんが参加している。何度も参加することでページが増えてく。



写真4. 里山ランチ

料理が得意なオーナーの知人がイベントの時にランチを作って提供している。季節の食材を使うことで会話の種になる。また、参加者の多くが小さい子供を持つ親で、普段お昼ご飯に時間を割けていないため落ち着いて栄養バランスの良い食事をとれると重宝されている。



写真5. 落語会 (ブログから引用)

大人数を招くイベントの時に限りリビングを開放することがある。

参考文献

茶の間ねこのて ブログ (<https://ameblo.jp/nekonote-417/entry-12621494471.html>)